

事業所名

子ども家庭支援センターゆめわかば

支援プログラム

作成日

令和7年

2月

20日

法人（事業所）理念		<ol style="list-style-type: none"> 1 すべての子どもたちに「学童保育の場」を保障することをめざします。 2 科学的な発達観、障がい児観にたち、子どもの人格全体の発達を促す学童保育の実践と理論を創造することをめざします。 3 保健、医療、福祉、保育、教育などの、生活のあらゆる面における子どもとその家族の思いを大切に、関係諸機関との連携協力関係を密にしつつ、その実現を積極的にめざします。 4 親たちをはじめ、子どもを取り巻くすべての大人たちが、子どもたちから共に学び合い、育ち合う場となることをめざします。 5 子どもとその家族はもちろんのこと、賛同・協力される団体、個人、みんなが主人公であり、みんなが経営者であるという、民主的全員参加の手づくりの共同体をめざします。 6 地域に根ざし、すべての子どもたちが健やかに育ち、幸せに生活できる地域づくり、社会づくりをめざします。 						
支援方針		1 のびのびくつろぐ安心感と開放感のある居心地のよい空間の中で、仲間や様々な大人との遊びや体験活動を通して子ども自身が存在感や期待感を実感しながら、子どものそれぞれの発達要求がゆっくりじっくりと保障される支援を行っていきます。						
営業時間		平日	10時	0分から	18時	0分まで	送迎実施の有無	あり
		支援内容						
本人支援	健康・生活	毎日の生活の中で学童支援ゆめの森に通所することが生活の楽しみの一つとなるようにそれぞれのやりたいこと、好きな事、得意なことも取り入れた活動も取り入れていきます。持ち物の管理や道具の片付けなど環境の整備を自発的に行っていける力をつけていけるように丁寧な声掛けと職員の関わりの中で自然とできていける力をつけていけるよう支援していきます。						
	運動・感覚	プログラム化した運動ではなく、子ども達が自然と楽しめる遊びの中で苦しい運動遊びにも挑戦していけるような場面を作っていきます。制作活動を通して道具を使う中で、目と手や体を一緒に動かしていく場面を作っていきます。						
	認知・行動	子どもによっては個々の特性に配慮した個別の部屋やパーテーションで人目が気にならない空間を作り視覚刺激や聴覚刺激の少ない環境をつくり、安心して過ごせるような支援行いきます。						
	言語コミュニケーション	自分のしたいこと、困ってること、悩んでいることなどを伝えられるようになっていくことで、生活の中で自分自身を大切にするための必要な行動ができる力をつけいくことを目指していきます。また、言語だけでなく、ノンバーバルコミュニケーションの獲得・活用も意識して支援を行う。						
	人間関係社会性	遊びの中で順番やルール、友達と協力する、失敗や負けを受け入れるといった他者と一緒に生活していく為の必要な力を身につけていけるように一つ一つの場面を大切に支援行いきます。そのために様々な集団の形の中で活動する機会（話し合い活動等）を作っていきます。						
家族支援	困りごとがあった時には相談支援と連携を取りながら管理者・児童発達管理責任者に相談できる環境を整えていきます。日常の送迎時にその日の様子を伝えたり、活動の様子や狙いについて説明を行います。また、保護者からの相談などその都度対応を行います。			移行支援		<ul style="list-style-type: none"> ・教育を受ける権利の保障として必要に応じて学校と情報共有を行います。 ・地域行事や地域の機関・施設へ参加し、子どもが地域の主人公になれるような支援を目指します。 		
地域支援・地域連携	必要に応じて学校との連携を図りながら支援方針や情報共有を行っていきます			職員の質の向上		毎月の職員会議内にて年間研修計画に基づいた研修と外部講師や外部研修へも積極的に参加できるようにしていきます。		
主な行事等		避難訓練（地震・火災）年2回、外出活動（買い物、レジャー施設、公共施設）、季節行事（初詣、花見、デイキャンプ、クリスマス会、そば打ち、餅つき等）、親子合同行事						